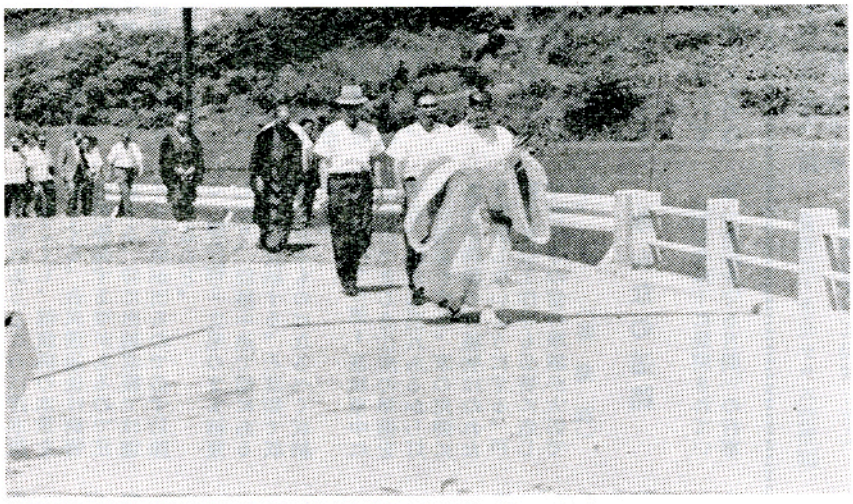
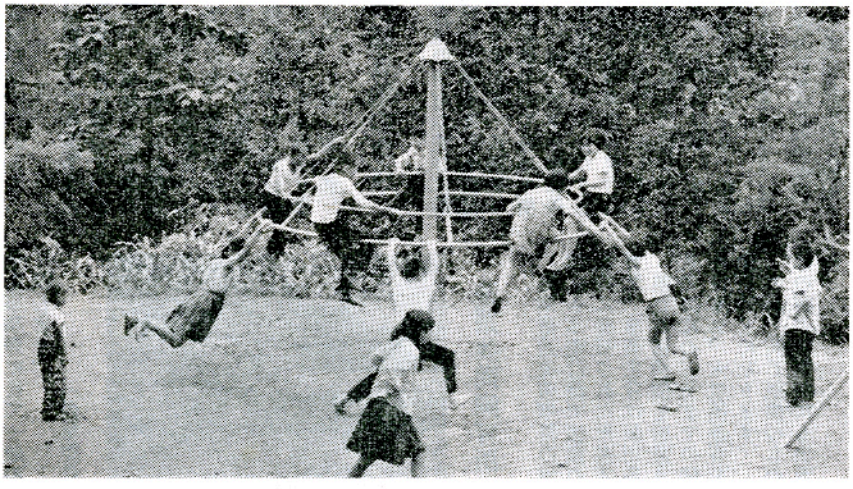
広報
さめがわ

第129号
昭和39年
8月25日発行

編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町　佐藤印刷所





湯の下橋が永久橋に

県道赤坂東野塙線広畑地内の湯の下橋は鮫川の両支流が合流する地点にあり、急カーブになつているため、交通事故などもありがちの所ですが今度新しく鉄筋コンクリートの永久橋にかけかえられました。

カーブもある程度改善されガードレールもつけられて立派な橋になりました。

総工費271万余円の県単工事で二割が村負担です。

7月29日の竣工式には棚倉土木事務所長がテープを切り地元の協力に感謝し、「橋もキレイになつたので、川もキレイにして下さい」とあいさつしました。

次には湯香橋、彦次郎橋のかけかえが待たれます。

塚本児童遊園地

子供に健全なあそび場を…というねがいは、都市と農村の差別なく、つよい要請となつて参りました。

農山村の巾員のせまい道路も、ひつきりなしに通る大型トラックやバスの騒音になやまされ、子を持つ親のなやみとなつてきました。

また去年の犯罪白書によると、八才から十九才までの少年のうち十四人に一人は、犯罪少年か非行のおそれがある少年であるということで、ここにも大きな心配の種子があります。

すこやかにのびのびと、たのしく遊びながら、集団の生活にもなれて下さいと、塚本部落では、児童遊園地をつくりました。

8月の人口と世帯

人口	7.730	(−14)
男	3.827	(−7)
女	3.903	(−7)
世帯数	1.236	(0)

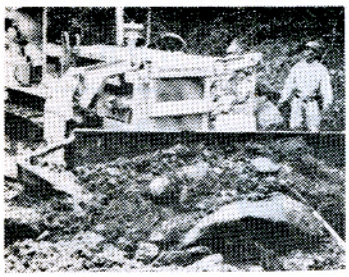
新らしい農業

戸草養蚕協業組合

昭和三十八年度で事業を実施した戸草養蚕協業組合は、短時日であらゆる困難を克服し部落より現地まで一、三㎞の農道を自己負担で開発し集団桑園三町二畝、壮蚕共同飼育所三棟三百㎡、上ぞく室一棟六四㎡動力防除機一台の事業で、皆様おなじみの遠ヶ竜養蚕協業組合よりいくぶん大きな桑園で年間収繭量三千キロ、金額で百八十万円を目標とする施設を作りあげました総事業費約二百五十万円（うち補助金百四十万円）と、荒川忠組合長をはじめ組合員その他多大の努力を要しましたが、国有林の払下げに依存しないで本村唯一の民有農業構造改善事業を実施しました。三年目で一千キロの収繭が予想される遠ヶ竜養蚕協業組合とともに、今後の実績が期待されます。

なおこの事業の桑園造成には、鮫川農協が農業構造改善事業で購入したブルドーザーを土地改良区が使用しました来月号では稚蚕共同飼育所など本事業で活やくする鮫川村農業協同組合を紹介します。

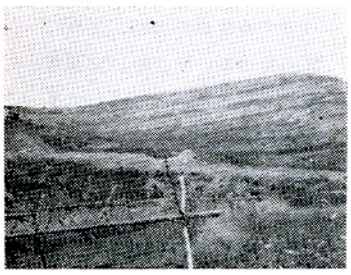
構造改善の第1陣



集団桑園まで一・三キロの農道つくりは困難そのもの……



ヤブを開き谷を埋めて一路目的地にすすむブルドーザー



見事にできたテラス型桑園　雑木山変つて桑園となる



よろこびの戸草養蚕協業組合員と土地改良区の技術職員

台風に注意

今年の台風発生回数は平年並で、本土に影響するのは三～四個の予想です。常に台風情報に注意し、台風の際は次のような応急対策をして下さい。

○ 水稲＝灌漑水を深くして倒伏を防ぐ。成熟したものは刈取つて安全な場所へ、冠浸水の恐れあるところは排水施設をよくし、灌漑溝の水量を少くする。台風通過後は病害虫が多発する事があるので注意する。特に出穂直後では穂イモチ病が出るので必ず防除をすること。

○ 畑作物＝立毛のまま結束したり、収穫中途で畑にある場合は収納する。そ菜類で収穫できるものはなるべく収納する。

○ 家屋その他＝暴風雨中にも外出できる身仕度の準備をする。停電の恐れあるから灯火の用意をする。家の周囲にある未調製の収穫物はぬれたり飛散しないようにする。戸締り補強工作等も必要に応じて行う等の常の準備が大切です。

（産　業　課）

みんなの道路

ただ今県下に展開されている「道路を守る月間」の行事として八月六日村内一斉に夏の道路愛護作業が行われました。

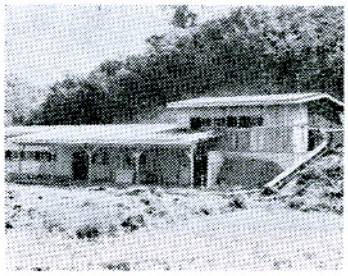
今回は棚倉土木事務所管内の道路工夫全員の協力を受け側溝さらい、道路上の支障になる雑草木の刈払い等を重点に実施しました。道路上の「ハセ」や桑の木、支障木などで道路のカーブの見通しがきかず危険な所がまだ見受けられますのでこれらの除去に御協力下さい。（産　業　課）

農耕採草地の申告

村内農地の所有地並びに耕作の状況を把握するため農業委員会は毎年八月一日現在で村内全農家について農地の所有並に小作地、採草放牧地等を調べて申告していただきます。用紙は各農事組合連合会長さんを通し配布いたしましたので必要事項を記載し各農事組合長さんに提出願います申告の結果は本年九月一日より同月三十日までの間農業委員会事務局に於て一般の従覧に供します。

（農業委員会）

稚蚕共同飼育所



農業構造改善事業の地区を越える事業計画で渡瀬の中山地内に建築された稚蚕共同飼育所。事業主体は鮫川農協。

稚蚕専用桑園も附設されてこの方部の三令までの飼育をうけもち、大規模養蚕を推進することになります。

これと同じ規模のものが中野の宿の入地内にも出来ました。

わが村の商業

7月1日現在により実施された商業統計調査の結果は、わが村の商業を次のように示しています。

（（　）内の数字は前回（昭和37年度）の商業統計調査の結果です）

総商店数	98戸（89戸）
内卸売業	10戸（6戸）
小売業	85戸（80戸）
飲食店	3戸（3戸）
総従業者数	188人（155）
内卸売業	22人（9人）
小売業	162（142）
飲食店	4人（4人）

となつており飲食店を除いては商店数及び従業者数とも増加の傾向が見られます。

おめでた

七月

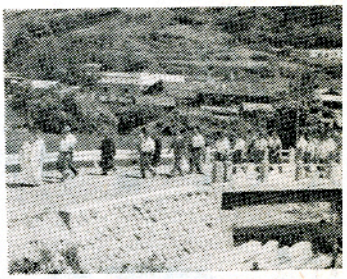
一日　青生野　菅野　保徳
一〇日　田ノ上　蛭田　典子
一〇日　青生野　森田　順子
一五日　本坂　円谷　幸子
一五日　菅田　生田目　清
一六日　沼野沢　本郷　文子
一六日　森ノ前　中川西マサ子
一七日　赤柴　箭内　義勝
二〇日　新宿　鈴木　祐子
二一日　彦次郎　赤坂　末雄
二五日　新宿　小松　茂隆
二六日　大戸中　小松　イチ

おくやみ

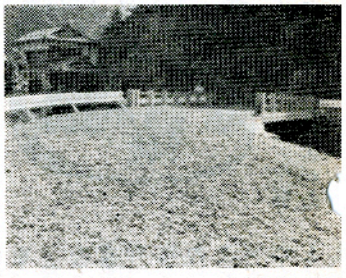
七月

三日　茅　64　白坂　芳男
三日　菅野目　75　大竹　勘吾
三日　岩野草　57　松崎　宝
六日　落合　69　我妻　タツ
九日　下　63　菊地　武雄
一六日　酒垂　46　鈴木　富雄
一六日　前田　7　金沢　英子

あの橋・この道



焼けるような炎天の下で湯の下橋の渡り初めが行われた



広畑街の表玄関を思わせる堂堂たる構えです



林道石井草線の維持管理は県下の模範であると表彰された



西山の村道、湯名田橋も災害復旧で永久橋に架替えられる

村政の歩み (13)

もう始まつた構造改善

村長　石田卯子八

本村の農業構造改善事業は年度もおしせまつた三月二十四日に東北農政局から認定されました。

それも役所の年度末事務の混雑から数日おくれて県から通知がとどくありさまで、三十八年度事業の実施は事実上困難の状態にありました。

しかも数十年来まれな春の豪雪で、野外作業はほとんど不可能に近かつたのです。

それで実施可能な事業を次のようにしぼつて初めることにしました。

一、戸草養蚕協業組合
集団桑園造成事業一部着工
壮蚕飼育所は資材の搬入
動力防除機の購入

二、鮫川農協
ブルドーザー購入
動力溝堀機購入
稚蚕共同飼育所着工

戸草養蚕協業組合の事業は本村の高冷営農地帯の構造改善を如何にすべきかの重要な課題にとりくむ最初の仕事であります。

冷害をうけやすい稲作、次第に減つていく木炭資材——など悲観的な現実の上に立つて、養蚕と畜産の規模拡大による所得増計画が考えられたわけです。

事業は昭和三十八年度に一部着工、引続き繰越しの形で継続施行されました。

協業経営の基盤となる集団桑園は、かつて国有林の払下げをうけ、各戸に分割されていた山林を持ちより、三、〇二ヘクタールを用地とし、ブルドーザー二台で開こんされました。

ここに鉄骨組立式の壮蚕飼育所三棟（九〇坪）上簇室一棟（二〇坪）動力防除機一台（三〇万円）が設置されました。

部落から現地までは約一・三kmもあり、この農道を作るだけでも大変な苦労でした。

補助事業で作るには数百万円を要するので非補助単独事業になりました。

これらの基盤整備事業には村の土地改良区が出血覚悟で作業を担当されたことを感謝しております。

この協業経営は荒川忠君等五人の組合員によつて行われますが、進んでパイロットの役割を果そうとする意欲はまことに盛んであり、敬服にたえません。

ここまでこぎつけるにもいろいろ苦心と障害がありましたが、これからも決して安易な道ではありません。

地域や関係方面の御指導御声援をお願いする次第です。

政府の助成で行われるこのたびの農業構造改善事業は、市町村内の特定地区で、特定の事業主体が事業を行う建前ですが、本村では地区を越える事業として、全村農家に及ぶ施設をいくつか計画しております。農協を事業主体とする稚蚕共同飼育所もそのひとつで、全養蚕家に配蚕できる規模で赤坂中野と渡瀬にそれぞれ一棟づつ建築されます。

共同利用農機具という事業種目で農協の設置したブルドーザーや動力溝堀機も、全村農家の営農改革のために十分利用されることを希望しております。

医療と国保

保険税は安心料

火災保険に入つているからといつて、自分の家に火をつける人もいないと思います。健康保険も火災保険と同じように、万一事故がおきた場合に備えての、いわば安心料ですから保険の厄介にならないような健康な生活であればそれに越したことはありません。「自分は国保の厄介にならないで損をした」という考えかたはまちがいでしょう。

ある大病院の統計では外来にくる患者の半分は、なんでもない健康な人で、入院を要するほどの患者はわずか一割位ということです。このように、病人とはいえない病人が相当いるようです。こういう人は、いわば自分で病気をつくつて、ムダな医養をうけているといえるわけです。

（住民課）

▶今月の納税◀

保険税第3期分です
納期　8月25日
納付場所　鮫川農協

忘れず遅れず納期完納に御協力下さい

（ね…ん…き…ん）未加入者はいないでしようか

加入の手続は本人がすることになつておりますので満20才になつた方は必ず加入手続を（役場住民課）して下さい。

本村で年金を受けている方は福祉年金（七十才以上の方）三四〇人で年金は約四百五十万円です。

拠出年金（国民年金に加入しており障害者になつたり、夫に死亡されたりして年金を受けている方は六人で年金は約十八万円です。（住民課）

伝染病の予防

夏は赤痢や疫痢等の伝染病の多い時期です。発熱や下痢などしたときは、早めに医師の診断を受けましよう。

たべものは新鮮なうちに食べ栄養のくみ合せにも注意し不規則な生活をさけることです。

伝染病の防止は

1 食前、食後、用便及び外出後は手を洗うこと

2 生物（野菜）特に生水は飲まないこと。

3 夜寝るときは腹巻をして早寝早起をすること。

（住民課）

栄養と睡眠を充分に
夏の健康を
守りましよう

告知版

高校分校の校舎増築

生徒の増加にともない鮫川分校では約四百万円の国県の費用で、農業実験室と被服室の二教室を増築することになりました。九月に着工し年内に完成の予定ですが完成のあかつきは名実ともに高校にふさわしい建物になることでしょう。

PTA会長矢吹さん表彰

四年間にわたり東白川農商高校鮫川分校の振興に尽された矢吹清敏さんは、このほど福島市で開かれた県高校PTA総会の席上にて県連合会長より表彰されました。

教科用図書の無償交付

小学校一年生から三年生までの児童の教科用図書は前期用に引続き後期用が九月一日無償で交付されます。

昭和四十年度は小学校一年生から五年生まで無償で交付され、昭和四十二年度までには義務教育の児童及び生徒全員に無償交付になります。

運動場の管理員

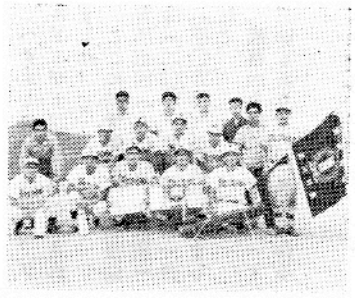
村の文化とスポツ振興のために村民運動場を管理保全し使用上の便益を図るため管理員に大字富田字前沼青戸実氏を委嘱しましたので管理員の注意や指示にご協力下さい。

先生のために住宅

へき地で恵まれない青生野小中学校に勤務する先生方のために、さきに一戸建設されていたが、今年もモダンな住宅一戸を新築することになり塙町大滝工務店の請負により十二坪、事業費約六〇万円で着工、九月末竣工の見込。

炎天下の熱戦 西野チーム優勝

村野球連盟主催、公民館後援による第四回社会人野球大会は八月一、二日の二日間にわたり村民運動場にて開催され、前回の優勝中野チームが予選で敗れるなど炎天下で熱戦が展開されたが、当初に劣勢を伝えられていた西野チームが、伝統の力とチームワークの良さで昨年春につづき再度優勝しました。←



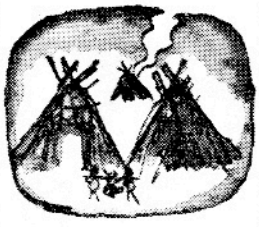
郷土の伝説 (21)

原始人の部落 壇の岡

中井恒雄

昔のこと私たちの先祖が本村赤坂中野字巡ヶ作の壇の岡に大集落を作つて住んでいた。

ここは一段高いところになつており、中央には広場をつくり、その周囲に円形をつくつて住居をかまいていた。また西の一段高いところには部落長が住んでおり、東と南側に面したところにも住居があつた。



この原始人の部落の仕事は皆んなが協力して、ある者は山に狩猟に、ある者は川に魚をとりにいつて生活していた。

獣や魚の狩猟には、石やりをもちい、その石やりは赤坂東野字広畑の中心地あたりで作つていた。それでここからは今でも石やりの破片や土器の破片が沢山見つけられますそれぞれの獲物は食糧小屋にツボなどに入れられ、部落民の食糧とされました。着物などは獣の皮や草の葉などの編んだものを着ていたのでした

村の皆さんへ

本郷喜三郎



①東野字戸草②鮫川小③昭和七年④公務員⑤二人⑥東京都

こうほうさめかわを、鮫川公民館報発刊の時からお送りしていただき、近代社会へ前進して行く村の姿がなつかしく想像され、また本年一月五日発行から村外各地で活躍されて居る皆様の近況が掲載されて種々の面影をしのんでなつかしみ本当に感謝しております。

再三原稿を依頼されながら健康を害して居り筆をとる気になれず失礼して居つたことをお詫び申しあげます。

病気療養中は故郷の皆様から心のこもつたお見舞を賜り本紙をかりて厚くお礼申上ます。

私は上京される村の皆さんとお会いしたり、また時折帰村し皆さんにいろいろ前進して行く村の様子など伺い、またその実情等を見て、農業の振興、教育施設の充実、その他交通網の整備等いろいろな施策が計画実施されて発展して行く村の変貌ぶりに驚いて居ります。

国が最も重要な施策として指導して居る農業構造改善事業の実施村に指定され、その実施については懸案であつた国有林の開放問題も一応解決し農業近代化へと推進され幾多の改善がなされる阿隈山系の高地に位置する故郷の近代社会へ発展して行く明るい前進に底知れない力強さが感じられます。

先般農林省畜産局の東さん等が和牛飼養状態の動向調査に鮫川村を選ばれて現地踏査され山村には珍らしく発展して居る村だといわれて愛する故郷に一層愛着を深く感じるとともに非常に肩身が広くかんじました。

これは一重にみなさんが一致協力して村の発展に努力されて居る賜であると信じますどうかみなさん今後も村の発展のために一致協力してよりよい村づくりにご努力されますようお願いいたします。

成績は次のとおりです。

一回戦

東 石2―9A西 山
渡瀬8―9 西野
高校8―3 中野
役場12―1 富田

準決勝

西野3―2 高校
役場3―9A西 山

決勝戦

西 山8―10A西 山

(写真は優勝した西野ナイン)

若妻学級の役員

毎月熱心に学習をつづけている中央学級の自治会役員が次のとおりきまりました。

会長(矢吹定子)、副会長(遠藤ヒデ、芳賀ヨシ子)庶務(青戸君江)、会計(水野ミチ)

委員(須藤昭子、関根ミツエ、関根フク、金沢ミチ子森フミ、中川西千恵子、国島春江、蛭田博子)

学級では九月十日に生活改善地区(日和田町)と農業先進地(伊達郡霊山町)に研修旅行を行ないます。

新潟災害の見舞金

村婦人会では各分会ごとに募金運動を行なつていましたが、このほど七、五七五円(うち県婦連に五〇〇円)がまとまつたので、役場を通じ現地に送金しました。

あとがき

夏は暑い……当りまえのことですが、こう暑い日がつづき雨が降らないとなると健康な人でもこたえるようです。編集子もすつかり参り、また遅くなりそうなのを気にしながら整理しています。

今月から役場の各課と各委員会事務局から一名づつ委員がでて編集委員会を構成したので定時発行も軌道にのると思われます。(鈴木)